

令和6年度の学校評価

| | | | |
|------------------------|--------|---|---|
| 本年度の 重点目標 (評価項目) | ① | キャリア教育の推進 | |
| | ② | 安全・安心な学校づくり | |
| | ③ | 授業力・専門性の向上 | |
| | ④ | 豊かな心と健やかな体の育成 | |
| | ⑤ | 授業・行事の充実 | |
| | ⑥ | センター的機能の充実と理解促進 | |
| | ⑦ | 開かれた学校づくり | |
| 自己評価 | | | |
| 担当 | 評価項目 | 目標・具体的方策 | 留意事項 |
| 幼小 学部 | ⑤ | ・周りの友達と協力して活動する態度を養うための指導の内容や在り方を工夫する。 | ・幼児児童が周りの友達を意識した関わりができるように指導・支援する。 ・目指す幼児児童像を共有し、担任を中心としたチームで関わるようにする。 |
| 中学 部 | ① | ・生徒一人一人のニーズや実態に応じ、進路指導や行事に取り組み、キャリア教育の充実を図る。 | ・生徒が自分の個性を理解し問題意識をもち、具体的な目標を決め活動に取り組めるよう指導・支援する。 ・目標を達成できたかを自己評価することを通して、自らの成長を感じられるようにする。 ・責任感をもって学校生活を送ることができるよう、やりがいを感じつつ活動に取り組めるような工夫を行う。 |
| 高等 部 | ① ⑤ | ・将来必要となるコミュニケーション力および心身のコントロール方法の向上を目指す。 ・主体的で対話的な学習の充実を目指す。 | ・授業、行事に限定せず、学校生活全般のあらゆる場面において設定する。 ・生徒の年齢や実態を十分に考慮し、生活面や精神面へのサポートや配慮を行いながら一人一人に合った方法を職員間で相談・共有して支援していく。 ・他校とのオンライン合同授業は、単元のまとまりで計画するなど、期間を設けて実施することで学習効果を高められるようにする。 |
| 総務 | ⑦ | ・岡崎盲学校の魅力や特色がより伝わるような学校要覧を作成する。 | ・どのような写真を入れたいかを検討し、各行事等の担当者に撮影を依頼する。 ・写真以外の情報も精査する。 ・他校の学校要覧も確認し、よいところを取り入れる。 |
| 教務 | ③ | ・今年度(令和6年度)から実施する学習評価の2期制を円滑に進める。 ・「教務の手引き」をもとに、教務関係諸表簿の作成等が円滑に進められるようにする。 | ・評価の2期制において、時間をかけて幼児児童生徒のよさや課題を確認し、今後の手だて等の改善が円滑にできるように、PDCAサイクルをしっかりと確立する。 ・評価の2期制の中で主体的・対話的(問題解決型)な授業に計画的に取り組むことで、児童生徒が主体的に考え、判断し、行動できるようにする。 ・「教務の手引き」の周知徹底に努め、定期的に見直し、修正をしながら評価の2期制における教務関係諸表簿の作成等が円滑に進められるようにする。 |
| | ⑤ | ・教科等横断的な視点に立った教育活動を充実させ、主体的、対話的で深い学びを実現する。 | ・今年度も引き続き岡盲クエストを実施することで、各発表グループにおいて児童生徒が主体的、対話的に取組を進められるようにする。 ・今年度(令和6年度)は、岡盲クエストで設定したテーマを基軸にさらに各教科等横断的な視点で授業を組み立てられるように各クラスと各教科でテーマ等の共有を図る。 |
| 生徒 指導 | ⑤ | ・児童会、生徒会活動の在り方を見直し、幼稚部から高等部までつながりのある一貫した指導に努める。 | ・中学部と高等部の生徒会の一本化に向けて、生徒の意見を聞きながら行事や生徒会活動を見直す。 ・児童会、生徒会活動が活性化するように各部の担当者間で連携を取りながら、幼稚部から高等部までの系統性を意識して検討する。 |

| | | | |
|--------------------------------|---|--|--|
| 進路指導 | ① | <ul style="list-style-type: none"> 外部関係機関と連携しながら進路指導に関する教員研修を行い、進路指導の向上を図る。 生徒本人、保護者と教員間で、希望進路に対する課題等を共通認識し、進路実現に向けて実習に取り組む。 福祉関係者や一般に、視覚障害者の情報について広報し、障害の理解を求める。 | <ul style="list-style-type: none"> 現職研修では、特別支援学校の教員として求められる障害福祉や障害者雇用に関する知識を深められる内容を選択制で提供する。 生徒の実態のもと、進路に関わる正しい情報を伝え、生徒本人・保護者の進路希望と合わせて検討し実習先を決定する。 地域の障害者自立支援協議会、また学校ホームページや生徒作品等を媒体にして、広く岡崎盲学校の情報発信に努める。 |
| 保健体育 | ② ④ | <ul style="list-style-type: none"> 災害時を想定した非常食の整備を行い、緊急時にスムーズに対応できるようにする。 健康に関する知識を深め、自分の体に興味をもてるようにする。 学校全体で体育的行事に取り組み、幼児児童生徒が、日頃の成果を発揮できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 非常食の保管場所の検討を行う。非常食の内容をよりわかりやすく表示する。 出前講座を利用し、専門家の声で知識を学べるようにする。 体育祭に向けて前回の反省を生かしながら見通しをもって準備し、よりよい活動ができるように計画していく。 |
| 教育情報 | ③ | <ul style="list-style-type: none"> 学校が保有している機器等を職員に紹介し、利用例を示して授業に活用できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 分掌の中で使用する機会を設定し、使い方の確認を行う。 外部の研修等に参加し、利用を促進していく。 |
| | ⑤ | <ul style="list-style-type: none"> 「声の図書館」の行事の内容を見直し、児童生徒の興味ある書籍を自身で読んで録音して放送する等、内容を改善していく。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒だけではなく、教員も参加して興味深い取り組みにしていく。 |
| 自立活動 | ③ | <ul style="list-style-type: none"> 職員のニーズや時代の流れに即した専門性向上研修を計画・実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> 盲学校の職員として理解しておくべき内容を取り上げた、従来どおりの研修を実施する。 昨年度までの研修実施後のアンケートを参考に、興味や関心のある内容を取り上げ、意欲的に専門性の向上を図れるようにする。 |
| 理療科 | ③ | <ul style="list-style-type: none"> 第三者評価(指圧)の評価基準・項目について検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> 評価シートを作成し、授業の指導内容や採点について教員間の共通理解を図る。 評価の客観性を高めるため、評価の項目・基準を明確に示し、評価を数値化できるようにする。 |
| 寮務部 | ④ | <ul style="list-style-type: none"> 寄宿舎と学校のつながりを意識することで、舎生を包括的に指導できるようにする。 余暇の過ごし方について考える力を育てるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 舎生の生活目標の設定を担任と保護者と連携して作成する。 帰舎後に校外への外出したり、運動したりするなど、活動の充実を図る。 |
| 学校関係者評価を実施する主な評価項目 | 保護者や地域、関係諸機関に対し、学校公開日や行事及びホームページを通した素早く、分かりやすい広報、情報発信に努める。 | | |
| 学校いじめ防止基本方針に基づく取組について | 児童生徒への生活アンケート(年3回)、教職員への「いじめ防止取組」アンケートによりの確な状況把握に努める。人権教育の取組から児童生徒間の交友をより深める。 | | |
| 勤務時間の適性な管理及び長時間労働による健康障害防止について | 在校時間記録により勤務状況を把握し、適切な勤務時間内で業務が進められるよう業務の改善や見直しを定期的実施する。退校時刻を定め、計画的に業務を進められるようにする。 | | |